

大平祐一 教授 略歴・主な業績

略 歴

略 歴

- 1946 (昭和21) 年 1 月 1 日 北海道上川郡神楽村 (現旭川市) に生まれる
1964 (昭和39) 年 3 月 北海道立旭川西高等学校卒業
1964 (昭和39) 年 4 月 東北大学法学部入学
1968 (昭和43) 年 3 月 同 卒業
2003 (平成15) 年12月17日 東北大学より学位 (博士 (法学)) を授与される

職 歴

- 1968 (昭和43) 年 4 月 東北大学法学部助手 (日本法制史講座)
1973 (昭和48) 年 3 月 任期満了により辞職
1976 (昭和51) 年 4 月 立命館大学法学部助教授
1983 (昭和58) 年 4 月 立命館大学法学部教授
1985 (昭和60) 年 4 月 法学部学生主事 (~ 1986年 3 月)
1987 (昭和62) 年 4 月 二部教務主任 (~ 1988年 3 月)
1989 (平成元) 年 4 月 ロンドン大学アジア・アフリカ研究所 (SCHOOL OF ORIENTAL AND AFRICAN STUDIES) 客員研究員 (~ 1990年 3 月)
1991 (平成 3) 年 4 月 法学部主事・法学研究科主事 (~ 1992年 3 月)
1994 (平成 6) 年 4 月 法学部調査委員長 (~ 1995年 3 月)
1995 (平成 7) 年 4 月 入試副総主査 (~ 1996年 3 月)
1996 (平成 8) 年 4 月 全学研究自己評価委員会研究分野自己評価推進委員会委員長 (~ 1997年 3 月)
2001 (平成13) 年 4 月 人文科学研究所専任研究員 (~ 2004年 3 月)
2004 (平成16) 年 4 月 生涯学習・社会人担当主事 (~ 2005年 3 月)
2005 (平成17) 年 4 月 立命館大学大学教育開発支援センター副センター長 (~ 2007年 3 月)

(上記のほか、山形大学 (学部), 大阪市立大学 (大学院), 同志社大学 (学部), 大

学院), 九州大学(大学院)で非常勤講師を務めた)

所属学会等

法制史学会(理事:1994年~現在)

法社会学会

民科法律部会

日本学術会議 基礎法学研究連絡委員会委員(2003年10月~2005年9月)

日本学術会議 連携会員(2008年10月より任期6年)

主な業績

著 書

『目安箱の研究』(学位論文)

(創文社)(2003年7月)

編著・共編著

『日本法制史論纂 紛争処理と統治システム』服藤弘司先生傘寿記念論文集
刊行会編

吉田正志・梅田康夫・伊藤一義・本間修平・藪利和氏と共編

(創文社)(2000年11月)

『問答集5 三聴秘録』大平祐一 本巻担当

石井良助・服藤弘司編(創文社)(2001年2月)

『「日本型社会」論の射程 「帝国化」する世界の中で』

桂島宣弘氏と共編(文理閣)(2005年3月)

論 文

「江戸幕府代官の一考察」

法学第36巻第1号 p. 1 (1972年5月)

「江戸幕府拝借金の研究 幕藩関係の一考察」

法制史研究23号 p. 73 (1974年3月)

「江戸幕府巡見使者」

服藤弘司・小山貞夫編『法と権力の史的考察』(世良教授還暦記念 上)

(創文社) p. 569 (1977年8月)

「幕末期の拝借金」

小室直人・小林三衛編『現代の民法』(川崎秀司先生・重倉珉祐先生古稀記念論文集)(法律文化社) p. 319 (1977年11月)

「『幕藩制国家』と『土地所有』についての覚書 石井紫郎・脇田修・安良城盛昭氏の見解をめぐって」

立命館法学第133・134・135・136号 p. 259 (1978年2月)

「幕末における旗本領主権 財政問題を手がかりにして」

立命館法学第150-154号 p. 141 (1981年2月)

「近世における債権の訴訟法上の保護について 学説整理を中心にして (一)」

立命館法学第158号 p. 20 (1982年2月)

「幕末の『御手伝』・『上納金』」

立命館法学第167号 p. 18 (1983年7月)

「近世における『金公事』債権の保護について 学説整理を中心にして」

大竹秀男・服藤弘司編『幕藩国家の法と支配』(高柳真三先生頌寿記念)(有斐閣) p. 289 (1984年4月)

「近世の大名『公務』とその崩壊 幕末の『御手伝』『上納金』を手がかりにして」

法学第48巻第6号 p. 96 (1985年2月)

「近世の非合法的『訴訟』 駕籠訴・駆込訴を素材として (一)～(七)」

立命館法学第183・184号 p. 158 (1986年3月)

立命館法学第194号 p. 1 (1987年12月)

立命館法学第211号 p. 53 (1990年12月)

立命館法学第243・244号 p. 33 (1996年3月)

立命館法学第250号 p. 155 (1997年3月)

立命館法学第254号 p. 1 (1997年12月)

立命館法学第265号 p. 1 (1999年10月)

「明治初期の目安箱 京都を中心にして (一)(二・完)」

立命館法学第201・202号 p. 143 (1989年3月)

立命館法学第223・224号 p. 39 (1993年1月)

Petition-Box in Tokugawa and Early Meiji Japan A Device for Accepting Suits

Ritsumeikan Law Review No. 6 p. 9 (1991年3月)

「近世日本における雇用法の転換 元禄一一年(一六九八年)の奉公年季制限撤

- 廃令 』
- 立命館法学第231・232号 p. 1 (1994年3月)
(『日本史学年次論文集』近世1(学術文献刊行会, 1994年)に収録)
- 「日本明治初期の目安箱」
法律史研究所編委会・中日文化交流叢書編委会合編『中外法律史新探』
《法律史研究》第二輯(科学出版社) p. 468 (1994年7月)
- 「近世の合法的『訴訟』と非合法的『訴訟』 救済とその限界 』
藪田貫編『民衆運動史3 社会と秩序』(青木書店) p. 49 (2000年3月)
- 「訴えの保障 近世訴状箱(目安箱)制度の研究序説 』
服藤弘司先生傘寿記念論文集刊行会編『日本法制史論纂
紛争処理と統治システム 』(創文社) p. 127 (2000年11月)
- 「近世日本の訴状 訴願手続の考察に向けて 』
立命館法学第271・272号 p. 206 (2001年2月)
- 「『問答集』に見られる租税滞納処分 近世国家の法の運用 』
立命館法学第275号 p. 180 (2001年7月)
- 「近世日本の『伺・指令型司法』」
立命館法学第286号 p. 1 (2003年3月)
- 「『日本の特色』の歴史的探求について 『精密司法』と江戸幕府の刑事手続につ
いて 』
大平祐一・桂島宣弘編『「日本型社会」論の射程
「帝国化」する世界のなかで 』(文理閣) p. 63 (2005年3月)
- 「『法史学の黄昏』から『法史学のルネッサンス』へ」
法律時報77巻10号 p. 104 (2005年9月)
- 「内済と裁判」
藤田覚編『近世法の再検討 歴史学と法史学の対話』
(史学会シンポジウム叢書)(山川出版社) p. 5 (2005年10月)
- 「近世日本における訴願手続 『訴訟』の体系的考察に向けて 』
立命館法学第316号 p. 1 (2008年3月)
- 「近世の刑事裁判と『無罪』 刑事裁判像の再検討 』
太田知行・荒川重勝・生熊長幸編『民法法学への挑戦と新たな構築』
(鈴木祿弥先生追悼論集)(創文社) p. 1097 (2008年12月)
- 「『出入』の終了 江戸時代の民事訴訟手続 』
立命館法学第327・328号 p. 1 (2010年3月)

- 「判決がでたあと 江戸時代の『訴訟社会』像」
夫馬進編『中国訴訟社会史の研究』(京都大学学術出版会) p. 336 (近刊予定)

資料

- 「宝暦十年代替り御料巡見使任務心得書」
立命館法学第139号 p. 114 (1978年12月)
- 「明治初期京都の目安箱訴状 『函訴検閲録』 (一)～(一一・完)」
立命館法学第236号 p. 227 (1994年12月)
立命館法学第238号 p. 118 (1995年3月)
立命館法学第240号 p. 313 (1995年9月)
立命館法学第241号 p. 276 (1995年10月)
立命館法学第242号 p. 111 (1995年12月)
立命館法学第246号 p. 157 (1996年8月)
立命館法学第247号 p. 105 (1996年10月)
立命館法学第257号 p. 163 (1998年6月)
立命館法学第262号 p. 302 (1999年3月)
立命館法学第279号 p. 131 (2002年2月)
立命館法学第284号 p. 1 (2002年12月)
- 「人別省略方書留」
立命館法学第307号 p. 1 (2006年10月)
- 「江戸町方の人口政策と『人別省略方書留』」
高木正朗編『18・19世紀の人口変動と地域・村・家族
歴史人口学の課題と方法』(古今書院) p. 270 (2008年3月)

学会動向

- 「近世の訴訟, 裁判制度について」
法制史研究41号 p. 163 (1992年3月)

書評

- 古川貞雄「信州佐久郡初期幕領の地方支配方式と石代納仕法(一)(二)」(「信濃」
23巻7, 9号)
法制史研究23号 p. 229 (1974年3月)
- 新見吉治「江戸幕府の天領支配」(徳川林政史研究所研究紀要, 昭和47年度)

- 法制史研究25号 p. 232 (1976年3月)
馬場憲一「勘定奉行・勘定吟味役の昇進過程に関する一考察」(法政史学第27号)
法制史研究26号 p. 244 (1977年3月)
高木昭作「幕藩初期の國奉行制について」(歴史学研究431号)
法制史研究27号 p. 274 (1978年3月)
後藤正人・藤原明久・石川一三夫「近世封建社会の土地所有に関する若干の問題」
(法制史研究第26号)
法制史研究28号 p. 230 (1979年3月)
松尾美恵子「近世中期における大名普請役 賦課方法に関連して」(徳川林
政史研究所研究紀要昭和52年度)
法制史研究29号 p. 201 (1980年3月)
井ヶ田良治「京都町奉行所の与力について 神澤貞幹『翁草』を素材として」
(秋山國三先生追悼会編『京都地域史の研究』所収, 国書刊行会)
法制史研究30号 p. 279 (1981年3月)
神保文夫「近世私法体系の転換 天保十四年の金公事改革 (一)(二)(三)
(四・完)」(法政論集(名古屋大学)第89号, 第92号, 第94号, 第95号)
法制史研究34号 p. 276 (1985年3月)
山田勉「延岡藩の刑事内済」(日本史研究第297号)
法制史研究38号 p. 264 (1989年3月)
牧英正・安竹貴彦「『聞訟秘鑑』その諸写本について(一)(二)(三)(四)(五・
完)」(法学雑誌34巻1号, 2号, 35巻1号, 2号, 36巻1号)
法制史研究40号 p. 293 (1991年3月)
陶山宗幸「江戸幕府の刑事内済 傷害罪の検討を中心として」(『法制史研
究』41号)
法制史研究43号 p. 317 (1994年3月)
岡田昭夫「明治高札考(一)~(四・完)」(『早大大学院法研論集』67~70号)
法制史研究45号 p. 234 (1996年3月)
山中永之佑編『堺県法令集』1~4
法制史研究46号 p. 196 (1997年3月)
神保文夫「江戸幕府出入筋の裁判における本公事・金公事の分化について」(『法制
史研究』45号)
法制史研究47号 p. 252 (1998年3月)
稲垣知子「近世大名の家格と婚姻 再論 一般大名の場合」(林董一博士古

- 稀記念論文集刊行会編『近世近代の法と社会 尾張藩を中心として』(清文堂出版)
法制史研究49号 p. 207 (2000年3月)
- 坂詰智美『江戸城下町における「水」支配』
法制史研究50号 p. 278 (2001年4月)
- 林真貴子「明治初期の預ヶ金について 民事裁判における訴訟銘の検討」(『近畿大学 法学』48巻3・4号)
法制史研究52号 p. 254 (2003年3月)
- 宮原一郎「近世中期の裁許と証拠文書 『裁許留』の分析から」(『国史学』178号)
法制史研究53号 p. 245 (2004年3月)
- 安高啓明「近世における先例慣習法下の量刑相場 『犯科帳』の分析を中心に」(『日本歴史』698号)
法制史研究57号 p. 286 (2008年3月)
- 講演録・講義録・コメント
- 「1985年度日本史研究大会報告批判 コメント(二)」(藤原明久氏と共著)
日本史研究第285号 p. 67 (1986年5月)
- 「権力者への直訴 目安箱の意義」
國學院大學日本文化研究所紀要第91輯 p. 295 (2003年3月)
國學院大學日本文化研究所編『法文化のなかの創造性 江戸時代に探る』(創文社) p. 27 (2005年3月)に再録
シンポジウム「法文化のなかの創造性 江戸時代に探る」(國學院大學日本文化研究所主催公開シンポジウム)パネリスト
國學院大學日本文化研究所編『法文化のなかの創造性 江戸時代に探る』(創文社) p. 145 (2005年3月)
シンポジウム「法が生まれるとき」(法制史学会)コメント(「日本近世法史の立場から」)
林信夫・新田一郎編『法が生まれるとき』(創文社) p. 317 (2008年10月)
「日本法史43年 名裁判とその意味するところ」
立命館法学第333・334号 p. 1901 (2011年3月)

辞典・事典項目執筆

「公事」「下知状」「沙汰」「進止」「大犯三箇条」「知行」

末川博創始 杉村敏正・天野和夫編集代表『新法学辞典』(日本評論社)
p. 225, p. 254, p. 415, p. 587, p. 718, p. 735 (1991年2月)

「小早川欣吾」

岸本美緒編『歴史学事典第5巻 歴史家とその作品』
(弘文堂) p. 221 (1997年10月)

学会・学会議報告

「江戸幕府拝借金の研究 幕藩関係の一考察」

法制史学会総会(1973年9月 北海道大学)

「幕末の『御手伝』『上納金』」

法制史学会研究大会(1984年10月 神戸学院大学)

「訴えの保障 訴状箱制度をてがかりにして」

法制史学会研究大会(1997年10月 甲南大学)

シンポジウム「近世の法と制度の再検討」報告(「内済と裁判 歴史学と法史学の対話に向けて」)

史学会大会(2004年11月 東京大学)

シンポジウム「法が生まれるとき」コメント(「日本近世法史の立場から」)

法制史学会研究大会(2004年11月 京都大学)

シンポジウム「ロースクール時代の法学研究・教育を問う 基礎法学の主張」報告(「『法史学の黄昏』から『法史学のルネッサンス』へ」)

日本学術会議基礎法研究連絡委員会・比較法学研究連絡委員会,
日本法社会学会, 日本法哲学会, 比較法学会, 法制史学会主催
(2005年3月 日本学術会議)

「『法の流通』合評会」報告

法制史学会総会(2010年5月 東北大学)

その他

「ゼミを担当して」

立命館学園広報第143号 p. 13 (1983年6月)

「ロンドン大学滞在記」

ユニタース(立命館学園広報)第220号 p. 7 (1990年6月)

- 「『越訴』にみる幕藩体制の巧妙な支配」
ユニタース(立命館学園広報)第277号 p. 8 (1995年9月)
- 「はがき通信」
日本歴史第596号 p. 160 (1998年1月)
日本歴史第696号 p. 143 (2006年5月)
- 「人文科学研究所での活動 『日本型社会』研究プロジェクトと土曜講座」
立命館大学法学部ニューズレター第26号 p. 2 (2001年10月)
- 「目安箱と訴えの保障 『目安箱の研究』によせて」
創文459号 p. 16 (2003年11月)
- 「『目安箱の研究』について」
立命館大学法学部・ニューズレター36号 p. 28 (2004年3月)
- 「『日本型社会』論の射程 「帝国化」する世界の中で」について」
立命館ロー・ニューズレター第42号 p. 18 (2005年9月)
- 「服藤弘司先生を偲んで」
法制史研究55号 p. 328 (2006年3月)
- 「將軍吉宗と目安箱」
学際18号 (2006年4月)
- 「学会報告と『法の越境』」
立命館ロー・ニューズレター第62号 p. 7 (2010年9月)